

開催日時：平成30年11月5日(月) 午後7時から

会場：下田まちづくりセンター

参加者数：44名

	ご意見・ご質問	市からの回答
1	湖南市の庁舎は一つでよいのでは。 下田まちづくりセンターの耐震化はどうするののか。	西庁舎の人権擁護課と教育委員会を新庁舎に集約します。西庁舎は窓口機能を残す形になります。下田まちづくりセンターは今後改修を検討してまいります。
2	庁舎の建替えは納得できない。庁舎の建替えありきで進められてるように感じる。今後の超高齢社会、人口減少社会に不安を感じている。エネルギー問題として、今あるべきものを長く使い、長寿命化を図るべき。庁舎の耐震化を図り、リフォームをして長く使うべき。	庁舎の建替えありきで進めてきたわけではありません。耐震補強で済むのであれば、そちらの選択で進めたいという思いはありました。耐震補強しましても、あと20年で耐用年数が来てしまい、建替えが必要となってきますし、次の世代との負担のこともあります。後年に建替えが必要となれば、次の世代に負担をかけてしまうことになると考えています。現庁舎は耐震基準を満たしておらず、耐震補強工事を行えば、耐震壁や鉄骨ブレースなどを執務室等に設けることになり、使いにくい庁舎がさらに使いにくくなってしまいます。これでは、逆に市民の皆様にご不便をおかけすることになります。現庁舎は、人口2万6千人の時に建てられた庁舎であり、今は5万5千人の市民を支えていますので、今の建物では到底入りきれぬものではありません。また、今の庁舎は設備が古く、エネルギー効率が悪くなっています。庁舎を建替えて、エネルギー効率の良いものにしていきたいと考えています。
3	小中学校の耐震化が終わったと言われたが、石部幼稚園、石部保育園、阿星保育園、三雲保育園、菩提寺こども園(南園舎)、下田こども園、水戸保育園の耐震化ができていない。庁舎の前に、幼稚園、保育園の耐震化を図るべき。	国の制度は、子ども子育て支援の新制度に代わっています。公立の園につきましては、国はお金を出さず、民間園の建替えに対しましては、国はお金を出すことになりました。保育に対するニーズが変わってきており、国と議論を行っています。国が突然、幼児教育・保育の無償化を言い出しまして、全国市長会としましては、無償化にかかる費用は国が全額負担するよう申し入れていますが、国は、地方がすべて負担するよう言ってきました。そういった負担が増えるとともに、無償化にすることにより、隠れた保育ニーズを掘り起こすことになり、現状でも待機児童が発生している状態ですが、10月の申込では、さらに多くの待機児童が発生する見込みです。待機児童が出るときは、公立園より、民間園の方が柔軟に対応が可能になると考えられます。すべての園を民間に移行するわけではなく、中学校区単位に公立園を残し、地域の民間園をバックアップしていく方向で考えています。地域の民間園には国のお金を受けることができますので、耐震化が図られた建物になっていくことができると考えています。

開催日時：平成30年11月5日(月) 午後7時から

会場：下田まちづくりセンター

参加者数：44名

	ご意見・ご質問	市からの回答
4	社会福祉センターで認知症予防教室を行っている。市の後援をいただき、使用料を減免してもらっているが、社会福祉協議会がサンライフ甲西に移転した場合、どこで活動すればよいのか。	社会福祉協議会はサンライフ甲西に移転していただくこととしています。サンライフ甲西に使っていただける部屋がありますし、各まちづくりセンターにも利用していただける部屋があります。そのほか、できる限り使用していただける部屋を紹介させていただきたいと思います。
5	ボランティアサークルは100近くあり、その活動にサンライフでは部屋が限られており、また、既に下田まちづくりセンターでも活動を行っている。できれば新庁舎で行いたい。	公共施設等総合管理計画において、現在、施設の総面積を減らしていく方向で検討しています。菩提寺コミュニティセンターなど、あまり使用されていない施設がありますので、そういった、市内の施設を紹介させていただきたいと思います。市内の施設全体で、調整をさせていただきたいと考えています。
6	まだ使える庁舎を建替えるのはもったいないので、反対である。庁舎建設を考える会でアンケート調査を行い800人を超える方から回答をもらっている。アンケートは、11月末まで続けていく。庁舎の建替えを知らない方が36.3%、反対の立場の人が90.5%、賛成が8.5%であった。この結果についてどのように考えているのか。市民の声に向き合ってほしい。耐震補強して長く使ってほしい。議会において、3億円で耐震補強ができると答弁されている。耐震補強はできない理由を明確にしてほしい。議会の委員会において、耐震補強では浸水被害が解消できないと答えている。茶釜住宅のコンクリートの落下や、桐山団地入口の歩道の設置など、庁舎建替えより市民要望が先に実施されるべき。	現庁舎は耐震化ができていないということが大前提になっています。耐震補強をすることは可能ですが、今でも市民サービスに苦慮している中で、耐震壁や鉄骨ブレースなどを設けることになり、さらに市民サービスが低下するような使いにくい庁舎となってしまいます。浸水があるからということではなく、検討した結果、建替える結論に至りました。建替えなくて済むのであればよいのですが、全体で考えると、それでは次の世代に責任を果たせないと考えています。分散化したままの庁舎では、サービスが十分でないと考えております。 なお、桐山団地の歩道の設置につきましては、予算化に向けた検討を行っています。 アンケートにつきましては、見ていないのでお答えはできません。

開催日時：平成30年11月5日(月) 午後7時から

会 場：下田まちづくりセンター

参加者数：44名

	ご意見・ご質問	市からの回答
7	<p>市債発行残高が284億あり、平成27年の長期財政計画と、平成30年の財政計画で市税の数値が違う。正確な数値を示してほしい。</p> <p>行政の一極集中は市内地域の孤立化を進め、高齢者や弱者に大きな負担がかかるので、行政機関の分散化が必要である。</p>	<p>借入金が増えてきているということですが、1/3は臨時財政対策債といたしまして、本来国が支払うべき地方交付税を市が立て替えているものです。将来的には、合併特例債の部分も、事業債の部分も減少していくと想定しており、臨時財政対策債は、将来、国に全額保証してもらいます。</p> <p>一極集中の考え方ですが、西庁舎にある教育委員会や人権擁護課、また、保健センターの高齢福祉課や、健康政策課などの行政機能を集約したいと考えています。湖南市は、甲賀市のように市域が広いわけではありませんので、集約を行えば、下田から教育委員会に行かれるのに中央で済みますし、石部や菩提寺から保健センターに行くのにも中央で済むことになります。</p>
8	<p>庁舎の建替えは賛成だが、庁舎が建つ場所が分からない。また、消防署やサンライフ甲西はそのままなのか。</p>	<p>現在の庁舎を残しながら建替えますので、庁舎の南側の駐車場に建てる予定です。新庁舎が完成しましたら、現在の東庁舎、社会福祉センターなどの解体工事を行う予定です。</p> <p>消防署につきましては、昨年度に耐震診断を行いました結果、震度6強の地震で倒壊する恐れが少ないという結果となり、国の有利な起債が活用できませんので、庁舎の整備と同時期に行うのではなく、後年に計画したいと考えています。</p> <p>サンライフ甲西は残る計画としています。</p>
9	<p>長寿命な庁舎となっているが、耐用年数は60年と思う。新庁舎は何年以上使用する計画なのか。</p>	<p>建物は一般的に60年と言われていますが、修繕計画などにより、より長く使用できるように設計したいと考えています。</p>
10	<p>将来、甲賀市と合併することはないのか。バスも便利になるのでは。</p>	<p>甲賀市と広域連携を図れるよう協議しています。両市の施設の相互利用など、抜本的に見直しを進めていこうとしています。バス路線も協議の対象になってくると考えています。甲賀市ともいろんなところで連携できると考えています。</p>

開催日時：平成30年11月5日(月) 午後7時から

会 場：下田まちづくりセンター

参加者数：44名

	ご意見・ご質問	市からの回答
11	市長の建替えの思いは理解できたが、急ぎ過ぎではないか。消費税や、国の制度の関係で、今しかないという思いなのか、市民の意見をもっと聞いて、いいものを建てたいと考えているのか、どちらなのか。	できれば耐震補強で済ませることができればと考えておりましたが、建替えざるを得ないと今は考えています。先に延ばせば伸ばすほど資金がかかりますので、できるだけ早く取り組んだ方が良く考えています。焦っているというよりは、後ろを決めて、そこから逆算して仕事をさせていただいています。工程計画を策定し、いろいろな面で市民の皆さんのご意見を反映しながら進めてまいりたいと考えています。